

平成27年度入試
個別学力試験問題(後期日程)

総合問題
(法文学部法経学科)

注意

1. 問題紙は指示があるまで開いてはいけません。
2. 問題紙は16ページ、解答用紙は2枚、下書き用紙は2枚です。指示があつてから確認し、解答用紙の所定の欄に受験番号を記入してください。
3. 答えはすべて解答用紙の所定のところに記入してください。
4. 答えは横書きとします。字数を指定したものは、句読点を字数に含めて数えてください。なお、数字は2字で1字として計算してください(漢数字は除きます)。
5. 解答用紙は持ち帰ってはいけません。
6. 試験終了後、問題紙および下書き用紙は持ち帰ってください。

平成27年度 個別学力試験（後期日程）

補足説明

科目名：総合問題（法文学部法経学科）

15ページ 問3 図表8

2010年世帯数の合計には、表に計上していない家族類型「不詳」の数を含みますので、家族類型別の合計とは一致していません。

1

次の文章を読んで、後の問い合わせ(問1～問5)に答えなさい。

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

}

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(出典) 藤原帰一「ナショナリズム——三つの謎」(『新編 平和のリアリズム』
岩波書店, 2010年)一部改変

問 1 下線部①～⑤のカタカナを漢字に直しなさい。

問 2 下線部(ア)について、ナショナリズムとその他の政治的イデオロギーの相違を100字以内で説明しなさい。

問 3 下線部(イ)について、「市民の政府」と「民族の国家」の相違を説明しなさい。

問 4 空欄 と に当てはまる最も適当な語句を、下記の選択肢の中から一つずつ選んで、記号で答えなさい。

: a. 破 壊 b. 檢 証 c. 扱 拭

 d. 収 奪 e. 詐 術

: a. 肯定的 b. 抑圧的 c. 懐疑的

 d. 慻意的 e. 積極的

問 5 下線部(ウ)について、「ナショナリズムの希望と幻想」は、発展途上国においてどのように表れると筆者は述べているか。100字以内で説明しなさい。

2

以下に示す図表をよく読んで、問1～問3に答えなさい。

問1 図表1～図表4から読み取ることができる特徴として、正しいものには

○、誤っているものには×をつけなさい。

- (1) 1985年と2012年を比較したとき、雇用労働者数は緩やかな増加傾向にあるが、増加要因は主に非正規雇用の増加による。
- (2) 非正規雇用は増加傾向にあるものの、2003年以降でも雇用労働者に占める非正規雇用の割合は3割を下回る程度である。
- (3) 非正規雇用に占める15～24歳の割合は1990年代後半から急増し、2000年を境に非正規雇用に占める割合が最も高くなった。
- (4) 日本の賃金カーブは正社員・非正社員にかかわらず年齢とともに増加する傾向にあるが、50～54歳をピークに減少に転じている。
- (5) 日本の賃金カーブは1980年以降、全体的に低下傾向にあるが、50歳代前半の大卒・大学院卒男性の賃金は、2012年では男性20歳代前半のそれの3倍程度に低下している。

図表1 正規雇用と非正規雇用の労働者の推移

(単位：万人)

| 年 | 正規の職員・従業員 | 非正規の職員・従業員 | 合 計 |
|------|-----------|------------|-------|
| 1985 | 3,343 | 655 | 3,998 |
| 1990 | 3,488 | 881 | 4,369 |
| 1995 | 3,779 | 1,001 | 4,780 |
| 2000 | 3,630 | 1,273 | 4,903 |
| 2005 | 3,375 | 1,634 | 5,009 |
| 2006 | 3,415 | 1,678 | 5,093 |
| 2007 | 3,449 | 1,735 | 5,184 |
| 2008 | 3,410 | 1,765 | 5,175 |
| 2009 | 3,395 | 1,727 | 5,122 |
| 2010 | 3,374 | 1,763 | 5,137 |
| 2011 | 3,352 | 1,811 | 5,163 |
| 2012 | 3,340 | 1,813 | 5,153 |

資料：2000年までは総務省「労働力調査(特別調査)」(2月調査)、2005年以降は
総務省「労働力調査(詳細集計)」(年平均)

(注) 2005年以降の実数及び割合は2010年国勢調査の確定人口に基づく推計人口(新基準)で遡及集計した数値を用いている。

2011年の実数及び割合は総務省統計局による補完推計値であり、前年差は補完推計値を用いて計算した参考値。

図表2 年齢階級別非正規雇用比率の推移

(単位：%)

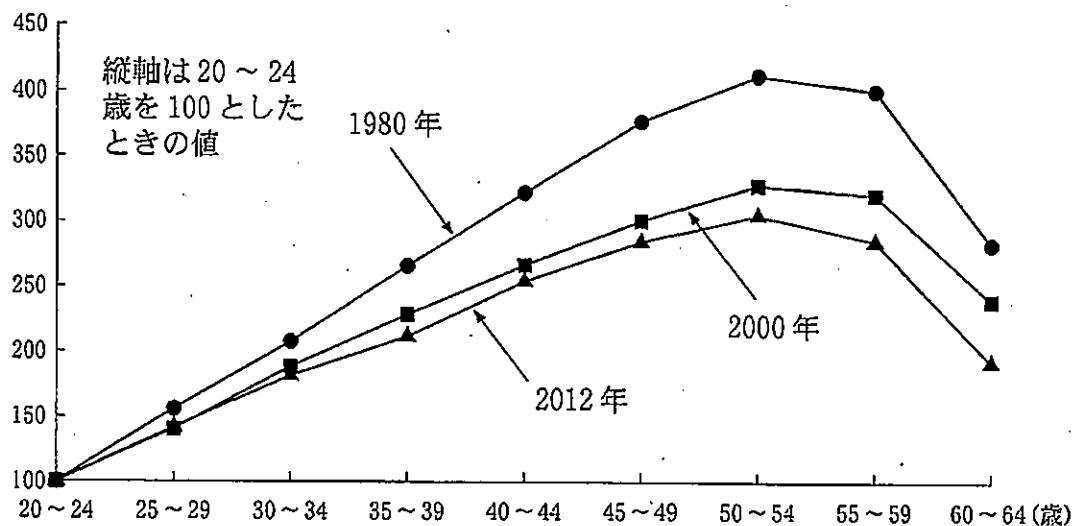
| 年 | 総数(15歳以上) | 15~24歳 | 25~34歳 | 35~44歳 |
|------|-----------|--------|--------|--------|
| 1985 | 16.4 | 6.7 | 9.8 | 17.6 |
| 1986 | 16.6 | 7.1 | 10.1 | 17.6 |
| 1987 | 17.6 | 8.0 | 10.2 | 19.3 |
| 1988 | 18.3 | 8.2 | 10.7 | 19.3 |
| 1989 | 19.1 | 10.3 | 10.7 | 19.6 |
| 1990 | 20.2 | 9.4 | 11.7 | 20.9 |
| 1991 | 19.8 | 9.5 | 10.9 | 20.2 |
| 1992 | 20.5 | 9.6 | 12.0 | 20.6 |
| 1993 | 20.8 | 11.5 | 12.0 | 19.7 |
| 1994 | 20.3 | 10.6 | 11.9 | 19.9 |
| 1995 | 20.9 | 12.9 | 11.9 | 20.4 |
| 1996 | 21.5 | 13.8 | 12.8 | 20.0 |
| 1997 | 23.2 | 17.6 | 13.9 | 20.9 |
| 1998 | 23.6 | 18.5 | 14.4 | 21.0 |
| 1999 | 24.9 | 20.7 | 16.0 | 21.7 |
| 2000 | 26.0 | 23.2 | 15.8 | 23.1 |
| 2001 | 27.2 | 24.7 | 18.2 | 23.1 |
| 2002 | 29.4 | 29.7 | 20.5 | 24.7 |
| 2003 | 30.4 | 32.1 | 21.5 | 25.4 |
| 2004 | 31.4 | 33.3 | 23.3 | 26.4 |
| 2005 | 32.6 | 34.2 | 24.3 | 26.6 |
| 2006 | 33.0 | 33.1 | 25.2 | 27.4 |
| 2007 | 33.5 | 31.2 | 25.8 | 27.2 |
| 2008 | 34.1 | 32.0 | 25.6 | 27.9 |
| 2009 | 33.7 | 30.0 | 25.7 | 27.0 |
| 2010 | 34.4 | 30.4 | 25.9 | 27.4 |
| 2011 | 35.1 | 32.3 | 26.4 | 28.0 |
| 2012 | 35.2 | 31.2 | 26.5 | 27.6 |

資料：2001年までは総務省統計局「労働力調査(特別調査)」

2002年以降は総務省統計局「労働力調査(詳細集計)」

(注) 15~24歳は在学中を除く。

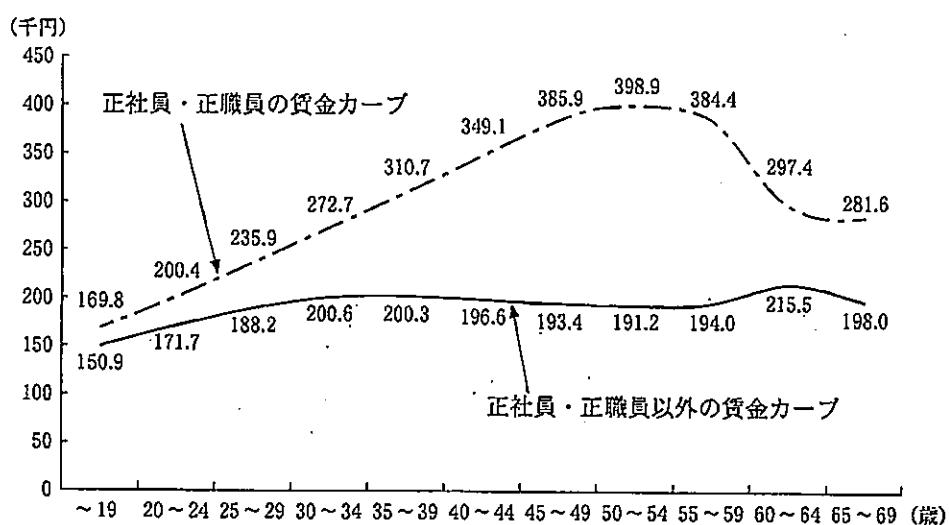
図表3 年齢階級別年収格差の推移



資料：厚生労働省大臣官房統計情報部「賃金構造基本統計調査」より政策統括官付政策評価官室作成

- (注)
1. 企業規模1,000人以上、男性、大学・大学院卒。
 2. 20～24歳を100として算出。
 3. 年収=きまって支給する現金給与額(毎年6月の額)×12+前年1年間の年間賞与その他特別給与額。

図表4 雇用形態別の賃金カーブ(月収)

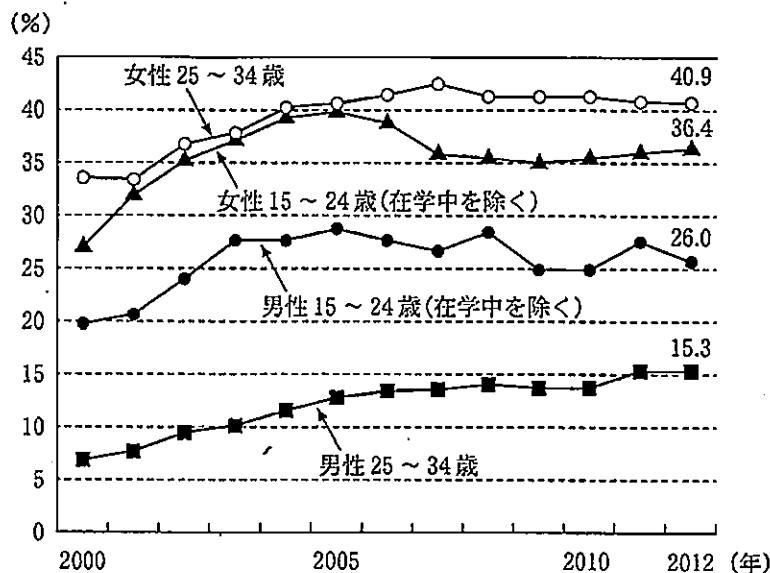


資料：厚生労働省大臣官房統計情報部「賃金構造基本統計調査」(2012年)

- (注)
1. 賃金は所定内給与額。
 2. 「正社員・正職員」とは、一般労働者のうち事業所において正社員・正職員である者。
 3. 「正社員・正職員以外」とは、一般労働者のうち正社員・正職員に該当しない者。

問 2 図表 5～図表 7 を見て、雇用形態と既婚率との関係について読み取れるこ
とを 350 字以内で述べなさい。

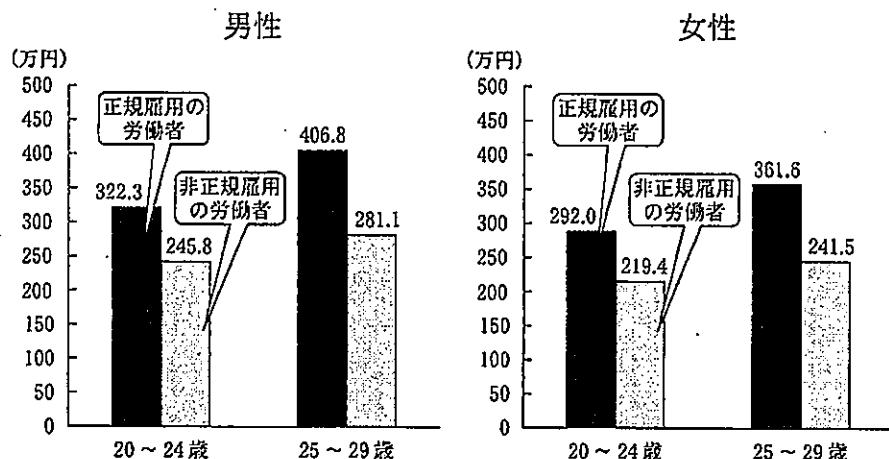
図表 5 若年層の非正規雇用の労働者の割合の推移



資料：総務省統計局「労働力調査」より厚生労働省政策統括官付政策評価官室作成

(注) 2001 年までは、総務省統計局「労働力調査(特別調査)」で、2000～2001 年は各
年の 8 月の値、2002 年以降は総務省統計局「労働力調査(詳細集計)」で、2002～
2012 年は平均値。

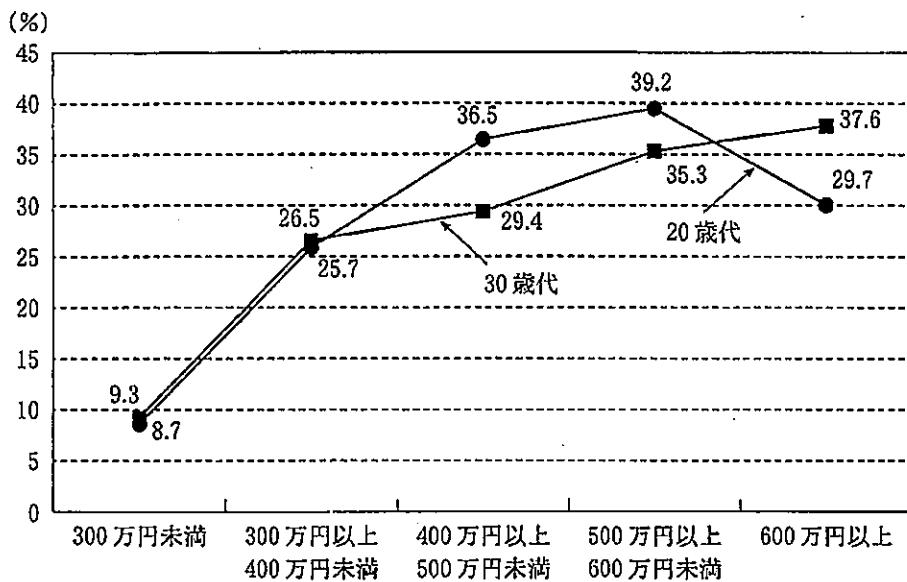
図表 6 雇用形態別にみた 20 歳代男女の年収



資料：厚生労働省大臣官房統計情報部「賃金構造基本統計調査」(2012 年)より厚生労
働省政策統括官付政策評価官室が作成

- (注)
1. 正規雇用の労働者は正社員・正職員、非正規雇用の労働者は正社員・正職
員以外の者。
 2. 「年収＝きまって支給する現金給与額(毎年 6 月の額) × 12 + 前年 1 年間
の年間賞与その他特別給与額」。
 3. 調査結果は企業規模 10 人以上。

図表7 年収別にみた20歳代・30歳代男性の既婚率



資料：内閣府「結婚・家族形成に関する調査報告書(2011年)」より厚生労働省政策統括官付政策評価官室作成

- (注)
1. 調査対象は、20～39歳の男女。既婚者は結婚3年以内。
 2. 性別・年代・未既婚については、総務省統計局「国勢調査報告」(2005年)をもとにウエイトバック集計。
 3. 「300万円未満」は「収入がなかった」、「100万円未満」、「100万円以上200万円未満」、「200万円以上300万円未満」の合計。
 4. 「600万円以上」は、「600万円以上800万円未満」、「800万円以上1,000万円未満」、「1,000万円以上」の合計。

問3 図表8～図表10を見て、世帯(家族類型)の変化とその要因について読み取れることを200字以内で述べなさい。

図表8 世帯の家族類型別割合の推移

(単位：%)

| | 1980年 | 1990年 | 2000年 | 2010年 | 2010年 世帯数 |
|-----------------|-------|-------|-------|-------|------------|
| 合計 | 100 | 100 | 100 | 100 | 51,842,307 |
| 夫婦のみ | 12.5 | 15.5 | 18.9 | 19.8 | 10,244,230 |
| 夫婦と子供 | 42.1 | 37.3 | 31.9 | 27.9 | 14,439,724 |
| 男親と子供 | 0.8 | 1.0 | 1.1 | 1.3 | 664,416 |
| 女親と子供 | 4.9 | 5.7 | 6.4 | 7.4 | 3,858,529 |
| 3世代等 | 19.7 | 17.2 | 13.5 | 10.2 | 5,308,648 |
| 非親族を含む | 0.2 | 0.2 | 0.6 | 0.9 | 456,455 |
| 単独 | 19.8 | 23.1 | 27.6 | 32.4 | 16,784,507 |
| 1世帯当たり人員 (人) | 3.2 | 3.0 | 2.7 | 2.4 | |

資料：総務省「国勢調査」

(注) 「3世代等」は、親族のみの世帯のうち、核家族以外の世帯。

図表9 生涯未婚率の推移

(単位：%)

| 年 | 男性 | 女性 |
|------|------|------|
| 1950 | 1.5 | 1.4 |
| 1955 | 1.2 | 1.5 |
| 1960 | 1.3 | 1.9 |
| 1965 | 1.5 | 2.5 |
| 1970 | 1.7 | 3.3 |
| 1975 | 2.1 | 4.3 |
| 1980 | 2.6 | 4.4 |
| 1985 | 3.9 | 4.3 |
| 1990 | 5.6 | 4.3 |
| 1995 | 9.0 | 5.1 |
| 2000 | 12.6 | 5.8 |
| 2005 | 16.0 | 7.3 |
| 2010 | 20.1 | 10.6 |

資料：総務省「国勢調査」

(注) 生涯未婚率は、50歳時の未婚率であり、45～49歳と50～54歳の未婚率の単純平均により算出している。

図表10 年齢階級別の単独世帯数の推移

| ＜女 性＞ | | | | |
|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | 1995年 | 2000年 | 2005年 | 2010年 |
| 19歳以下 | 233,075 | 206,573 | 178,563 | 160,506 |
| 20~29歳 | 1,223,872 | 1,344,463 | 1,314,520 | 1,278,775 |
| 30~39歳 | 389,288 | 564,047 | 780,714 | 876,766 |
| 40~49歳 | 395,001 | 374,722 | 453,619 | 642,188 |
| 50~59歳 | 600,719 | 704,192 | 753,650 | 718,092 |
| 60~69歳 | 928,572 | 1,016,229 | 1,080,931 | 1,264,069 |
| 70~79歳 | 890,682 | 1,167,903 | 1,390,536 | 1,548,178 |
| 80歳以上 | 354,610 | 554,456 | 839,987 | 1,203,250 |
| ＜男 性＞ | | | | |
| | 1995年 | 2000年 | 2005年 | 2010年 |
| 19歳以下 | 335,578 | 284,215 | 256,942 | 218,160 |
| 20~29歳 | 2,461,694 | 2,349,568 | 2,047,081 | 1,889,172 |
| 30~39歳 | 1,048,794 | 1,310,894 | 1,564,534 | 1,602,911 |
| 40~49歳 | 982,356 | 963,233 | 1,059,667 | 1,329,192 |
| 50~59歳 | 703,031 | 1,023,889 | 1,243,482 | 1,244,127 |
| 60~69歳 | 410,532 | 560,906 | 779,829 | 1,151,582 |
| 70~79歳 | 187,764 | 337,952 | 490,165 | 610,216 |
| 80歳以上 | 93,821 | 148,076 | 222,863 | 307,422 |

資料：総務省「国勢調査」